

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

■ 1 平安神宮からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・ 仁王門通から北に向かう神宮道には、京都市京セラ美術館や京都府立図書館、ロームシアター京都などの近代建築物が建ち並ぶエリアである。
- ・ 広大な敷地を有する視点場内からは、周辺の建造物等が見えないよう工夫がされている。
- ・ 境内や参道から東向きには、東山の緑が借景となっており、沿道の緑や琵琶湖疏水などと相まって、豊かな自然景観を形成している。



1-1 仁王門通から南への眺望
：神宮道沿いには、商業ビル等が見える。



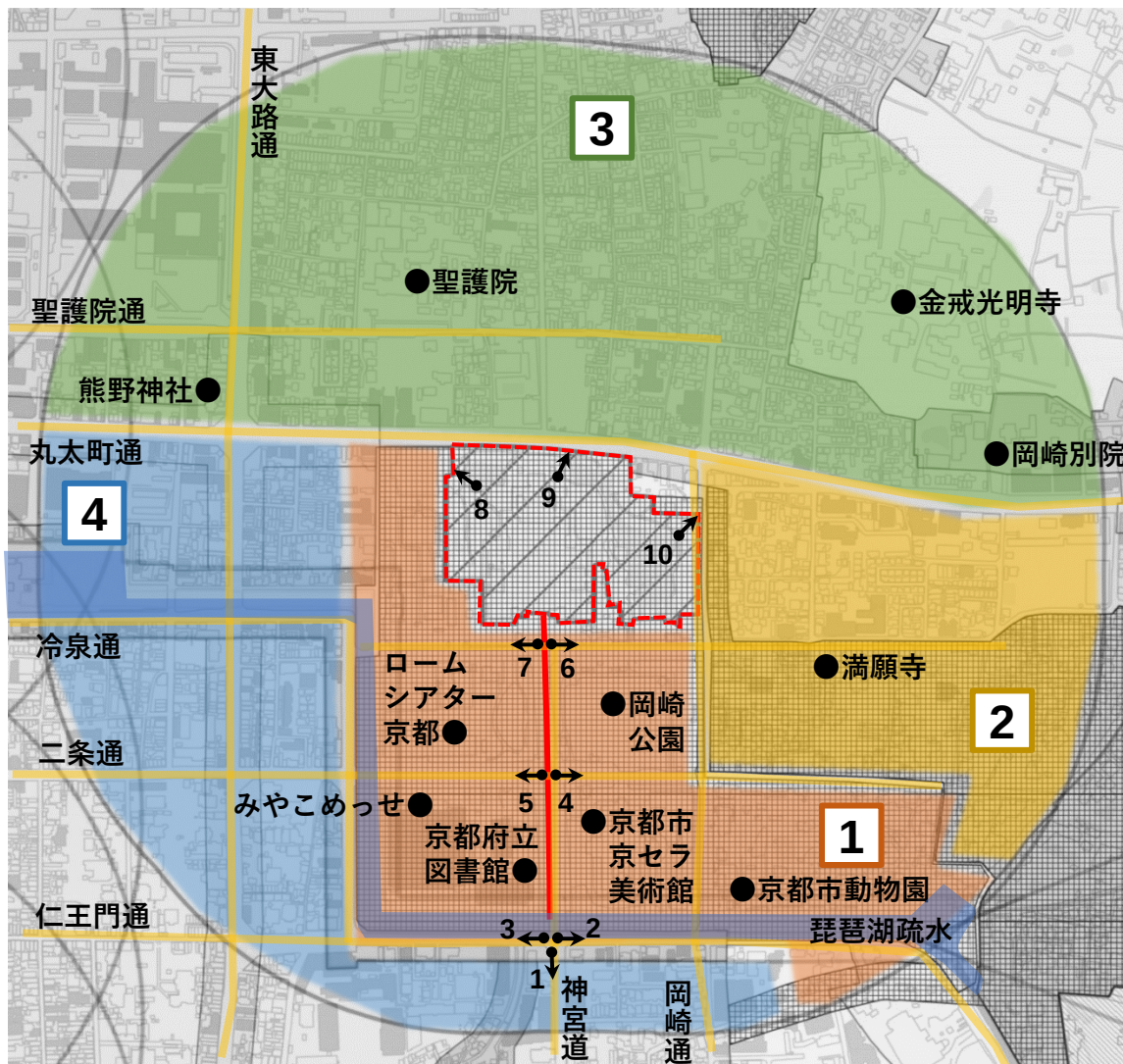
1-2 仁王門通から東への眺望
：宿泊施設や商業ビルの並ぶ通りの正面に東山が見える。



1-3 仁王門通から西への眺望
：テナントビルや会館が見える。
通りの右手には疏水が流れる。



1-4 二条通から東への眺望
：東山を背景に京都市京セラ美術館が見える。



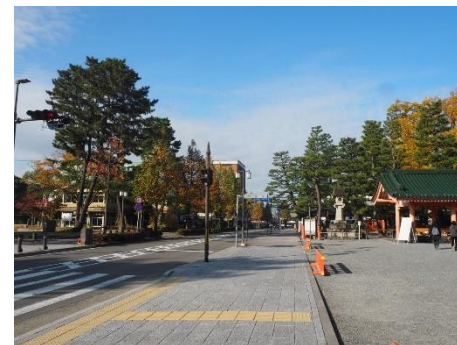
--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



1-5 二条通から西への眺望
：みやこめっせやロームシアター京都が見える。



1-6 冷泉通から東への眺望
：東山や平安神宮、岡崎公園の豊かな緑が見える。



1-7 冷泉通から西への眺望
：土産物店や美術館が見える。



1-8 西神苑から西への眺望
：樹林の間から京都市武道センターが見える。



1-9 東神苑から北への眺望
：丸太町通沿いの建築物が見える。



1-10 東神苑から東への眺望
：岡崎通沿いの建築物が見える。

■ 2 平安神宮周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・ 視点場の北側には、熊野神社をはじめ聖護院や東本願寺岡崎別院、金戒光明寺など、歴史ある寺社が立ち並んでいる。
- ・ 京都の近代化の一翼を担ってきた地域であり、南側には京都市京セラ美術館や京都府立図書館などが整備されている。
- ・ 東山の緑を借景とし、公共施設の敷地内や寺社の境内の緑、街路樹や生垣など沿道の緑、琵琶湖疏水など、豊かな自然景観を形成している。



2-1 丸太町通から東への眺望
：東山を背景に神社やホテルが見える。



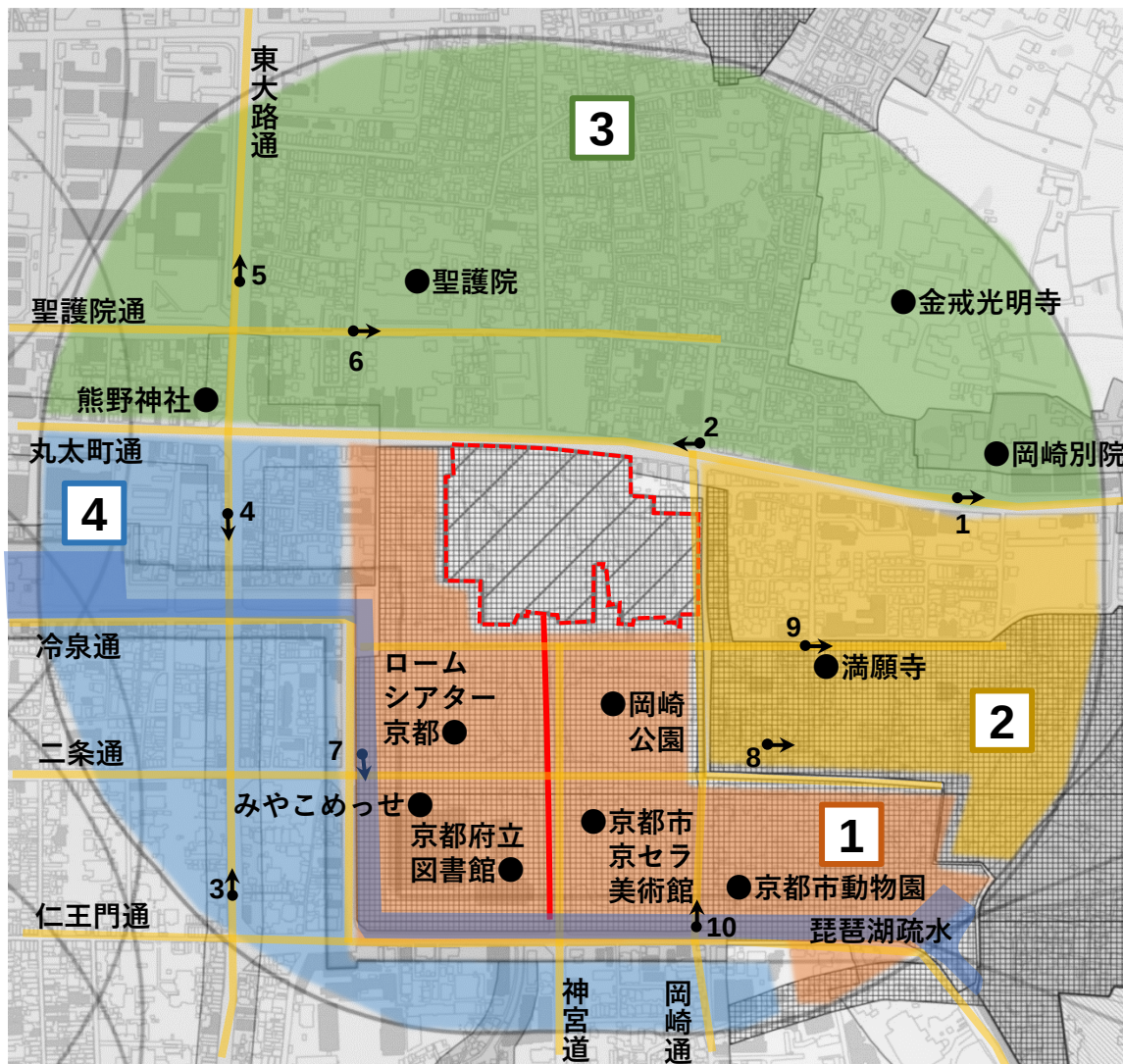
2-2 丸太町通から西への眺望
：平安神宮の高塀越しに緑豊かな植栽が続いている。



2-3 東大路から北への眺望
：中低層の建築物が立ち並ぶ。



2-4 東大路通から南への眺望
：中層のビルや店舗が続いている。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



2-5 東大路通から北への眺望
：京都大学付属病院の建物が連立している。



2-6 聖護院通から東への眺望
：東山を背景に聖護院門跡を含む町並みが見える。



2-7 疏水沿いの南への眺望
：疏水沿いに公共施設が立ち並ぶ。



2-8 古い町並みが残る
：細い道路に古民家が建ち並んでいる。



2-9 冷泉通から東への眺望
：新しい集合住宅の向かいには古い社寺が残っている。



2-10 岡崎通から北への眺望
：通り沿いに動物園や岡崎公園が見える。

■ 3 平安神宮周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 平安神宮南側		
ア エリアの歴史等	・ 当地は明治中期まで高い生産力を誇る岡崎村の耕作地であった。明治23年(1890)に琵琶湖疏水第1疏水の鴨川合流点までと蹴上から分岐する疏水分線とが完成した。 ・ 明治28年(1895)、現岡崎公園を会場とする第四回内国勧業博覧会が開催された。美術館、工業館、農林館、機械館、水産館、動物館が主要なものであった(図3-1)。また平安遷都1000年を記念して平安神宮が創建された。同30年代には武徳殿・動物園・岡崎公園、同40年代には府立図書館・市勧業館、大正期に市公会堂、昭和期には市立美術館・京都会館と文化施設が次々と建設され、京都市の美術・文化・学問の中心地となった。	
	・ 岡崎公園のエリアである。平安神宮を北に配し、東山や比叡山を背景として、ロームシアター京都、京都市京セラ美術館、京都府立図書館など近代的デザインの建築物が文化ゾーンらしい景観を形成している。 ・ 明治32年に平安神宮の参道として整備された神宮道には、大鳥居がシンボリックな存在感を出している。沿道の美術館や図書館などの近代的建築物とあわせて、独特の町並みとなっている。 ・ 岡崎公園や動物園は、地域住民のみならず市民の憩いの場として親しまれている。神宮道の一部が廃止され岡崎プロムナードとして整備されている。 文化財等：旧武徳殿、京都市美術館本館	
イ 町並みの特徴		
ウ 景観形成方針	岡崎公園地区特別修景地域	風致地区
	歴史の重層性を感じさせる建築物と水や緑に彩られた広々とした空間の保全。継承を図る。	文化施設が集積した地域で、大規模な街区が継承され、街区内の緑や街路樹、背景となる東山とが一体となった広がりある空間が形成されている。
エ 建築計画等に求める配慮事項	京都会館や、京都府立図書館、京都市美術館、京都市動物園周辺では、これらの魅力ある建築物との調和を図る。広々とした緑豊かな通り景観や都市における自然的景観を保全・継承するため、道路及び疏水に面した既存樹木を保全する。	平安神宮や庭園群からの借景空間の保全や南禅寺北西に広がる邸宅群の景観の保全、仁王門通、神宮道、岡崎道や疏水沿線等の沿道景観の整備、無鄰菴等から東山の借景を望む視線の方向となる南禅寺参道における高さの抑制、意匠・形態等に重点を置く。

参考写真等



3-1 第四回内国勧業博覧会図譜及看覧人心得 明治28年(1895)



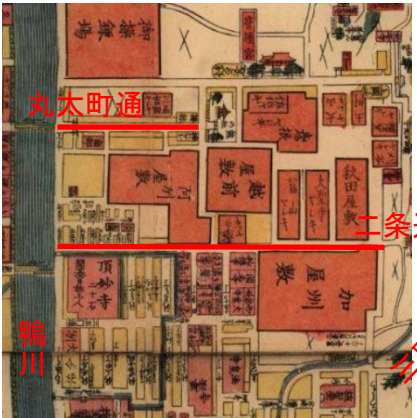
3-2 二条通の町並み



3-3 神宮道から大鳥居への眺望



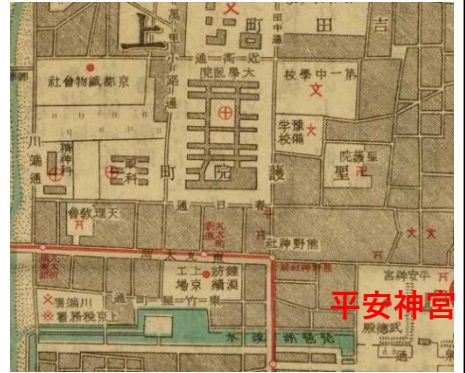
3-4 仁王門通から東への眺望 遠くに東山が見える。

2 平安神宮東側				参考写真等
ア エリアの歴史等	・ 本地域は平安前期から貴族の別荘地として開けた。江戸期の岡崎村の中心地にあたり、豊富な物産を配し近郊農村として高い地位を占めていた。 ・ 江戸末期になると岡崎村の畑地を利用して加賀藩、阿波藩等の大規模な藩邸が建設され、空地のないほどに埋め尽くされた(図3-5)。 ・ 明治初期に藩邸等は撤去され、再び畑地へ戻る。 ・ 昭和5年(1930)に京都市電丸太町線が熊野神社から岡崎天王町まで延長され、観光と住宅の両面から開発が進み市街化していった。			 3-5 京町御絵図細見大成 慶応4年(1868)再刻
	・ 丸太町通の南側沿道は、岡崎中学校や商業ビル、集合住宅が立ち並ぶ。岡崎通にも商店などが多くある。 ・ 岡崎通から一步東側に入ると、国登録文化財に指定されている関西美術院や、瓦葺屋根の古い木造建築物を多く見ることができる。中でも満願寺やその周辺に残る古民家群は、落ち着いた景観を形成している。 ・ 東西の通りからは東山を望むことができ、身近に自然を感じることが出来る落ち着いた雰囲気のある住宅地である。 ・ エリアの東南には京都市の指定名勝である、東山の眺望を活かした白河院庭園があり、その周辺は邸宅が立ち並び、和塀や庭の緑が続く町並みである。 文化財等：満願寺本堂、白河院庭園			 3-6 丸太町通の町並み
イ 町並みの特徴				
ウ 景観形成方針	風致地区	岡崎・南禅寺特別修景地域	山並み背景型美観地区	 3-7 満願寺周辺の古民家が残る町並み
	山ろく部の住宅では、緑豊かな日本瓦ぶき和風建築による落ち着いた環境を形成している。	東山の借景空間の保全を図る。また、歴史の文脈を考慮した上で、近代的景観の創出を図る。	主要な通りから沿道の社寺と一体に東山の山並みを眺望することができる。	
エ 建築計画等に求める配慮事項	平安神宮や庭園群からの借景空間の保全や南禅寺北西に広がる邸宅群の景観の保全、岡崎道の沿道景観の整備に重点を置く。	建築物は和風外観の度合いを高め、京都らしい雰囲気を持続させる。道路側に植栽、生垣、和風門、和風塀のいずれかを設ける。	社寺周辺の建築物については、勾配屋根の和風基調の外観を基本とし、敷地内の緑化を充実する。	 3-8 白河院の東の通りの町並み

3 平安神宮北側

ア エリアの歴史等	- 江戸期には本地域の大部分が聖護院村に属し、岡崎神社周辺は岡崎村上岡崎、金戒光明寺周辺は岡崎村黒谷門前(黒谷村と呼ばれる場合もある)となる。 - 聖護院村は農耕が盛んで、京野菜の聖護院だいこん・聖護院かぶ・聖護院きゅうりの発祥地である。 - 明治5年(1872)設立の京都牧畜場は日本初の西洋式牧場の始まりである。 - 明治32年(1899)には、牧畜場を含む広大な用地が買収され、京都帝国大学医科大学付属病院が開業した。 - 病院の付属施設が完成するに従い、病院前には宿屋や雑貨店が開店し町並みをつくっていった(図3-9)。		
	- 丸太町通の北側沿道は、住宅や中層マンション、寺社などが立ち並んでおり、落ち着いた雰囲気である。東大路通に近づくと商業系の建築物が増える。 - 落ち着いた住宅地で、聖護院や岡崎神社など歴史的資産も数多く歴史を感じさせる町並みとなっている。 - 東方には、金戒光明寺やその塔頭、真如堂などがあり、東山を背景に黒谷の緑が相まった、特徴的な景観を形成している。 - 西方には、商業ビルや京都大学付属病院などと、熊野神社などの寺社が混在している。 - 視点場の北方には、錦林小学校や白河支援学校、京都大学などの教育施設が点在する。 文化財等：聖護院書院、金戒光明寺三重塔、熊野神社、栗原邸、聖護院ハッ橋総本店		
イ 町並みの特徴			
ウ 景観形成方針	風致地区	山並み背景型美観地区	沿道型美観形成地区
	金戒光明寺一帯は、落ち着いた緑の風景を作り出しており、独特の地域景観を醸成する役目を果たしている。	真如堂、金戒光明寺等の社寺と東山の山並みを一体に眺望することができる景観特性を継承する。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。
エ 求める配慮事項	黒谷の住宅地の和風デザインの水準の向上、貴重な緑である斜面地の樹木の保全に重点を置く。	社寺周辺の建築物は、勾配屋根の和風基調の外観を基本とし、歴史的な町並み景観の保全を図る。	

参考写真等



3-9 最新京都市街全圖 大正4年(1915)



3-10 丸太町通の町並み



3-11 聖護院通の町並み



3-12 熊野神社前の東大路通から北への眺望

4 平安神宮西側

ア エリアの歴史等	エリア西側の正往寺町には、正往寺をはじめとする浄土宗寺院10か寺が立ち並んでいる。宝永5年(1708)の宝永の大火の後、寺町通の東側にある荒神口から二条の間の寺院が替地を与えられ、そのうちの大部分が鴨川東の岡崎村畑地へ移転したことが町形成の発端である。寺院移転後、時期は不詳であるが仁王門通西寺町西入北側に門前町的な性格を持つ町並みが形づくられ正往寺前町と称されていた。		
	- 東大路通沿いは、低層の商店や住宅などが並ぶ中に、中層のマンションやビルも混在する。 - 寺社も多く、細街路や密集した住宅地がある。 - 熊野神社の木々がこんもりと森のように見え、出店が出て野菜や果物などが賑やかに売られている。 - 疏水沿いからは東には東山が望め、西には発電所が見える。 - 二条より南には寺が多くあり、東大路通沿いにも大きな寺がいくつも建っている。 - 仁王門通は両側に寺院が立ち並び、住宅も昭和初期のものが多く、歴史を感じさせる町並みとなっている。 文化財等：西川家住宅(主屋、土蔵)、大野邸		
イ 町並みの特徴			
ウ 景観形成方針	岸辺型美観地区	旧市街地型美観地区	沿道型美観形成地区
	琵琶湖疏水は、豊かな水量と疏水沿いの柳や桜等の樹木と調和し、潤いと緑豊かで良好な岸辺景観を形成している。	西寺町通の沿道周辺は寂光寺などの広大な敷地と伽藍を有する寺院が集積し歴史的な町並みを形成している。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。
エ 求める配慮事項	疏水沿いの樹木や東山の山並みと調和するよう、積極的に緑化する。現代建築物は、岸辺や緑等の自然景観と調和するよう配慮し、良好な岸辺景観を保全する。	建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は門や塀を設置するなど、京町家や社寺と調和した町並み景観の保全、創出を図る。	

参考写真等



3-13 京町御絵図細見大成 慶応4年(1868)再刻
赤囲いは正往寺町の範囲。
10か寺の名が記載されている。



3-14 東山仁王門から北への眺望



3-15 仁王門通から東への眺望
遠くに東山が見える。



3-16 東山仁王門から西への眺望

3-1 「西京區組明細圖」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-5 「京町御絵図細見大成」西尾市岩瀬文庫／古典籍書誌データベース（<https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/2321315100>）
3-9 「最新京都市街全圖」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-13 「京町御絵図細見大成」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）